
バカとテストと二つの頭脳

エルク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと二つの頭脳

【Nコード】

N0849Z

【作者名】

エルク

【あらすじ】

生まれながら二つの頭脳を持って生まれた少年「吉井明久」

彼の持つもう一つの頭痛の人格が目覚める時、試召戦争に何かが起こる……

「ファイル0」プロローグ（前書き）

初投稿です。

更新速度は亀以下ですが宜しくです。

「ファイル0」プロローグ

- 明久side -

夢を見ていた

真っ暗で何もない不思議な場所

そこに僕はただ一人ポツンと突っ立っていた

『此処は・・・何処？』

見回しても明かり一つない・・・そこに

『お・・・しろ！』

『えっ！誰！？』

突然、微かに聞こえた謎の声に辺りを見回すが僕以外誰もいない・・・
・そしたらまた声が聞こえた

『返事しろっつてんだろこのバカが！？』

『ちよっ！？誰さ人をバカ呼ばわりしたのは！？』

今度ははつきり聞こえた

・・・確かに否定出来ないほどのバカではあるけど、まさか夢の中
でもバカ呼ばわりされるとはっても見なかったよ・・・
そう思っていたら目の前に誰かがゆっくりと姿を現した

『・・・ようやくここまで繋がったか
たくつ、11年も人を無視しやがって』

『11年？君は一体・・・』

目の前に現れたのは僕と同じ位の背丈の男性だった・・・顔は暗く
て良く見えないけど・・・

それと、11年前と言えば僕が5・6歳位前の話だ
その時に何があつたか記憶を辿ってみたけど・・・

『・・・駄目だ、思い出せない』

その時の年の頃なんて明確に思い出せる訳がない

『まさか、あの時のせいで記憶がとんだか・・・いや、無意識に思
い出したくないだけなのか・・・

いずれにしても繋がるのが遅すぎた理由はそれか』

あの時？記憶？一体何を言っているんだ？

その時、目の前の男の身体が透けて消えはじめた

『チツ！時間切れか・・・

今回はもう失せるぜ』

『えっ！ちょっと待ってよ！君は一体誰なのさ！』

『たくつ、聞いてどうすんだ？言っても忘れてるだろうに・・・ま
あ良いさ、俺はー』

その後、彼が何を言っていたのかは聞こえなかった

けど・・・振り向いた時のあの顔は――銀色の眼をした僕だった――

「また・・・あの夢？」

目が覚めた僕は気だるそうにベッドから起きる

「毎度ながら一体誰なんだろう？アイツ」

アイツ

最近になって見る様になった変な夢

その夢に出てくる謎の男・・・

姿は僕にそっくりだけど、性格や口調は全く違う・・・そう考えていると・・・

―ズキンッ！！

「つつっ！！」

突然の頭痛に僕は頭を手にあてる

別に痛みは大したことはないけど・・・

「最近頭痛も頻繁になってきたなあ……」

昔はあまり頭痛なんてしなかったのに、あの夢を見る様になってからかなり頻繁になってきた

「うーん・・・まあ考えてても仕方ないし、早く着替えて学校にいかう」と

因みに今時間は7時56分

完全に遅刻は免れない

そして、今日も塩と水で朝食を済ませた・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0849z/>

バカとテストと二つの頭脳

2011年12月3日04時59分発行